



北海道医歌人会詠草

化粧にも品の良さあるその方の今も昔もそのままなのか
年配はパーマをかける若者は直毛のまま時の流れか
直毛とパーマの境は幾歳かと居並ぶ女性にいい目が走る
臍横にピアスをつけた若い娘よそれがオシャレと思うのかな
つけまつ毛とは言わないで今ふうにあれマスカラというのだそうだ

江別 三宅 浩次

名花一輪
火星には数億トンの水在りのためにその地に火星人の住むとか
畠より引抜かれたる菊芋は植え直されるや生気澆刺
亡き夫の続く汚名をすがむと決然立てる名花一輪そに応じてや天もほほ笑む
戦いすんで日の昏れて政治定まり国力発揮を期すこと甚だし
ミサイルは降るや降らずや彼の国はその声四辺を驚愕にさす

札幌 山口 康徳

確定申告
月毎に税の天引きして貰う職場終りて長き日を経ぬ
幾十度繰返しても馴染めざる確定申告記入書式は
認知症テストを受ける覚悟もて確定申告の記載に挑む
アルバイト依頼先より電話ありこれで今年も税が拂える
税理士に依らず書式と苦闘する経費節減の最後の砦

札幌 古屋 統

同期追悼

美唄 吉村 誠治

訃報うけ古きアルバム探したり君は予科帽我陣羽織（及川慶文君 24.2没）
恵迪寮に暮らしポリクリ共にせし寮歌の友が又一人逝く（竹田保君 24.6没）
岩見沢中学よりの四人にて六十七年の医の道なりき（黒崎嘉文君 24.10没）
二八会と酒を愛せし君逝けり楽しく飲むを忘れざらまし（小池義郎君 24.11没）
逝きたるを偲び夕べの庭に立ち「都ぞ弥生」声あげて歌ふ

メイゲツカエデ
濡れ落ちしメイゲツカエデの妖しき葉今朝なほ萎えず手に取りて賞づ
時雨来つ日差しを受けて虹が立つ通勤バスに歓声起きつ
朝の日が視線の高さ向かひより来る人の顔見別け能はず
単車の娘駐めてキヤップを格納し髪をまとめてバンドに束ぬ
階段の中ほどに佇ち息づかひ整へつらむ白髪の人

札幌 浜島 泉

足跡
人類の進化の原点ここにありアフリカに残る家族の足跡
直立の二足歩行で踏み出せり森からサバンナへ身を寄せ合つて
けだものにおびえ屍肉と根茎で命つなぐ間芽吹きし智慧の実
協働と助け合いの中はぐくみし子どもに生まれた大脳進化
智慧の実で世界の覇権握りたる人類は今・原点はるかに

釧路 兎玉 昌彦

野辺の花
去り難き心さそはれ野辺の花吾が家の花壇に持ち帰り来つ
ひそやかに路に咲きいし花一輪吾が家の花壇で元気に育つ
たくまじき野生の花は今日もまた淡きピンクを一輪咲かす
花もまた人の心を知るらんか咲かせて僅かに枝を伸ばしつ
名も知らぬ野生の花が咲く場所に今年も春にたづねてみたり

旭川 稻積 文子